

平成23年度個別施策ヒアリング資料(優先度判定)【文部科学省】

施策番号	24012	施策名		博士課程教育リーディングプログラム			
新規／継続	新規	領域	人財強化	国際的位置付け	—	AP施策	
競争的資金		e-Rad		社会還元			
施策の目的及び概要	新たな成長分野で世界を牽引するリーダー（卓越した専門性、広範な知識、豊かな教養、国際性、リーダーシップを備えた博士人材）を養成するため、高度な教育研究基盤を有し世界をリードする大学における、卓越した大学院教育に関する取組（プログラム）を、原則7年間、産学官のオールジャパン体制で強力に支援する。（取組要件として、（1）体系的なコースワーク、研究指導等の有機的連携による、一貫した学位プログラムとしての博士課程教育を構築、（2）国内外の優秀な教員・学生を結集し、国際ネットワークの下で学生を切磋琢磨させる開かれた大学院教育を展開、（3）企業や公的機関等との協議の場を設け、教育上の連携やキャリアパスの確立を推進、を想定） 平成23年度は、各大学院の特性や教育プログラムの類型に応じて、 タイプ1：オールラウンド型（大学の叡智を結集した文理統合型の学位プログラムに基づく博士課程教育を実施）を2拠点 タイプ2：複合領域型（複数領域を横断した学位プログラムに基づく博士課程教育を実施）を12拠点 タイプ3：オンリーワン型（ユニークな博士課程教育を学位プログラムとして強化）を6拠点 選定し、重点的に支援する。						
達成目標及び達成期限	・「リーディング大学院」の修了生（博士号取得者）が、世界を牽引するリーダーとして、国内外の社会のあらゆる分野で活躍する。 ・社会からの大学院と大学院生に対する評価の向上、博士課程への優れた人材の結集、博士号取得者の雇用拡大、という好循環を構築する。 ・理工系博士課程修了者の完全雇用を達成する。 ・博士課程（後期）在学者の2割程度が生活費相当額を受給する。						
研究開発目標及び達成期限	平成31年度までに、「リーディング大学院」として博士号を授与する学位プログラムを60程度構築し、成長を牽引するリーダーを養成できる環境を形成する。（併せて、必要となる組織整備を実施する。）						
23年度の研究開発目標	平成23年度中に、新たに、20の学位プログラムの構築を開始する。						
施策の重要性	知識基盤社会が進展する中、イノベーションを生み出し社会に新たな価値を創造する人材や、膨大な知識の中から全体を俯瞰し、高度な地球規模の課題の解決のために国際社会でリーダーシップを発揮する人材が不可欠となっている。このような中、主要先進国やアジア諸国においては、国際競争力の強化のために優れた博士の養成を強化しており、国際的に優れた人材の獲得競争が激化している。 このため、「新成長戦略」（平成22年6月閣議決定）の「21世紀の日本の復活に向けた21の国家戦略プロジェクト」に掲げられた「『リーディング大学院』構想」を実現し、成長分野などで世界を牽引するリーダーとなる博士人材を養成していくことが極めて重要である。						
実施体制	・第三者による審査・評価委員会を設け、国公立大学を通じた公募による審査を実施。なお、審査時には、大学設置・学校法人審議会による知見を活用。 ・事業開始4年目に中間評価、事業期間終了後に事後評価を実施。 ・リーディング大学院構成大学と関係主要企業、経済・学術団体等からなる常設の推進委員会を設け、取組の進捗・成果を共有するとともに、博士課程修了者がグローバルな知識社会の中核として活躍する社会の確立を目指し、産学官のオールジャパンの体制で、優秀な博士人材の獲得、養成、活躍のシステムを構築。						

H22予算額(百万円)		H23概算要求額(百万円)	
—		5,150	
独立行政法人名(運営費交付金施策のみ)			
H23概算要求額の内訳	— 【タイプ1(オールラウンド型)】 1課題あたりの金額:300 採択予定プログラム数:2 【タイプ2(複合領域型)】 1課題あたりの金額:300 採択予定プログラム数:12 【タイプ3(オンリーワン型)】 1課題あたりの金額:150 採択予定プログラム数:6 審査・評価等経費:50		
期間	H23～H31	資金投入規模(億円)	2,000
これまでの成果 (継続のみ)	—		
社会情勢・ 技術の変化(継続のみ)	—		
昨年度優先度判定 (継続のみ)	—	優先度判定時の指摘への対応(継続のみ)	新規施策のため、該当せず
国民との科学・技術対話推進への対応(対象施策のみ)	該当せず		